



画・高宮良子

すいた今昔 関西大学の敷地内に、かつては滝が流れ落ちていたそうです。単独は子ども(来園者)、戦後は学生。今も昔も「若者の街」なのです。

裏 表紙の写真を見てほしい。現在の関西大学には、かつて滝が流れ落ちていたのだ。残念ながら滝は自然のものではなく、モーターで水をくみ上げて落とす、高さ10メートルの人口滝だった。なぜここに滝があったかという点、この土地はかつて「千里山遊園」、つまり庶民の行楽地として栄えていたからである。

滝はイラストの右手、関大会館あたりであった。現在の社会学部校舎(第3学舎)付近が小高い丘になっているが、ここには「飛行塔」があり、100周年記念会館のあたりは50メートルプールで、ミニ動物園や野外音楽堂もあったという。戦時中は「非常時に「遊園」は不謹慎」ということで、「千里山厚生園」と名が変わり、戦後「千里山遊園」として復活する。しかし時代とともに来園者が少なくなり、関西大学がこの土地を取得し、現在に至っているのだ。

すいた市民しんぶん

2008.12 DECEMBER

vol.12

この新聞は定期的に発行し、吹田市民のみなさまにお届けしています。

CONTENTS

吹田青年探偵団 ⑩	吹田の乱開発状況 ストップするのは誰か?	2
すいた市民しんぶん対談	吹田の地域医療を考える 廃止しかない後期高齢者医療制度 保険料・窓口負担増で2重の苦しみ	6
9度目のイラク取材	バグダッドは壁に囲われた「監獄都市」	10
吹田溺愛主義 ⑦	吹田駅移転… 異端児川端信治郎をめぐる 戦火に散ったアスリート ⑫	12
大阪タイガース・景浦 将	勝手に吹田遺産 ⑧ 吹田から日本中へ ユーモアを届けた雑誌「まんがマン」	5
	いわみせいじのヨコシマ日記 ⑫	15